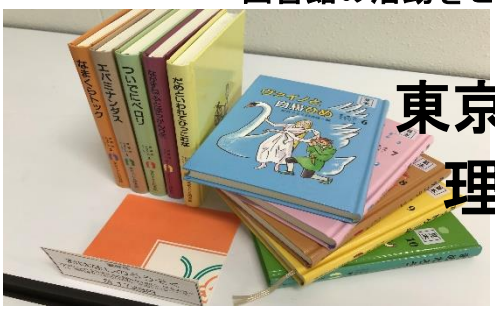
大分大学高等教育開発センター「協育」ネットワーク推進事業
NPO 法人大分県「協育」アドバイザーネット「協育」プログラム開発事業

第６回『子どもと本を結ぶあなたへ…』講演会

演　題

子どもと本の幸せな出会いのために
私たちができること

「子ども時代の読書や留学体験、公共図書館や東京子ども
図書館の活動をとおして、感じてきたこと、願っていること」



東京子ども図書館
理事長　張 替 惠 子 氏

日　時：2018 年 9 月 8 日(土)　９：１５～（受付）
場　所：大分大学旦野原キャンパス　教養教育棟１階

主　　催

大分大学高等教育開発センター

ＮＰＯ法人大分県『協育』アドバイザーネット
人と本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい（結い)」

ご　　挨　　拶

私たちは、大学生をはじめ、読み聞かせを中心とする読書支援のボランティアやその関係者を対象に年１度、平成２５年度から５年間にわたり、「子どもと本を結ぶあなたへ」をテーマに講演会を開催してきました。

６年目となる今回は「東京子ども図書館理事長　張替惠子氏」に、大学生や子どもと本に関わるボランティアの方々、教職員及び各種の図書館に勤務されている方々を対象に「子どもと本を取り巻く現状」そして「子どもと本に関わってこられた経験や想い」を語っていただき、参加者のこれからの活動に役立ててもらいたいと願って開催しました。また、交流会では、講師「張替氏」を囲んで、参加者同士が交流し、お互いに高め合い、読書支援のネットワークを広め、深めることができました。

講師の、東京子ども図書館理事長　張替惠子氏、参加していただいた方々、スタッフ等の関係者の皆さんに感謝し、本報告書を作成しました。ご一読いただき、今後の活動の参考にしていただければ幸いに存じます。

大分大学高等教育開発センター
ＮＰＯ法人大分県『協育』アドバイザーネット
人と本を結ぶ読書支援プロジェクト「ゆい（結い）」

＜報告書の構成＞

第１部　第６回東京子ども図書館理事長張替惠子氏講演会の記録

第２部　第１回からの「こどもと本を結ぶあなたへ」の講演会を振り返って

学生ボランティア「結」代表　櫟村さんの読み聞かせ

第１部　第６回東京子ども図書館理事長張替惠子氏講演会の記録

☆張替惠子（はりかえ　けいこ）氏　プロフィール☆

1976～77 年、米国ウェスタン・ミシガン大学へ留学、児童文学等を学び、文学部を卒業。
1978 年、慶応義塾大学図書館・情報学科卒業。東京都日野市立図書館勤務を経て、1993 年より東京子ども図書館職員。
2015 年 6 月、同館理事長に就任　　武蔵野大学非常勤講師
『児童図書館サービス論』（共著・理想社）、児童向訳書に『ブータレとゆかいなマンモス』（学研）『黒ネコジェニーのおはなし』1～3（共訳・福音館書店）、『図書館に児童室ができた日』（徳間書店）等

＜午前の会場＞教養教育棟１階　１４号教室

・9：30～9：45『図書館に児童室ができた日』　＜学生による読み聞かせ＞

・9：50～開会のあいさつ

・10：00～12：00　『講演会』

・12：00～13：00　休憩

☆教養教育棟１階　１４号教室　　昼食会場

☆教養教育棟１階　１３号教室　　東京子ども図書館出版物等展示

＜午後の会場＞教養教育棟１階　１３号教室

・13：00～14：00　『交流会』

「講演会講師　張替　惠子氏を囲んで」

～子どもと本の幸せな出会いのために 私たちができること～

講演の概要

時折、ユーモアを交えたお話の中で会場からの笑いを誘いながら、様々な本を紹介して自らの「本との出会い」をとおして、本が持つ魅力について語っていただきました。

●幼児期の思い出としての母の語り、父の蔵書との出会いが本との関わりの始まり
『夢を掘りあてた人―トロイアを発掘したシュリーマン』
ヨハンナ・インゲ・フォン・ヴィーゼ作　大塚勇三訳　岩波書店

●児童図書館員という仕事にめぐりあう
『子どもと本の世界に生きて』アイリーン・コルウェル著　石井桃子訳　こぐま社
『児童文学論』リリアン・スミス著　石井桃子、瀬田貞二、渡辺茂男訳　岩波書店
〇慶応大学の渡辺茂男（子どもの本の作家、翻訳家（1928～2006 年））先生との出会い
代表的な翻訳に『エルマーのぼうけん』（ルース・S・ガネット作）、『かもさんおとおり』（ロバート・マックロスキー作・画）、創作に『しょうぼうじどうしゃ　じぷた』（山本忠敬画）、『もりのへなそうる』、自伝的作品である『寺町三丁目十一番地』（いずれも福音館書店）等。1957～1975 年慶應義塾大学で講義。http://www.shigeo-watanabe.com/

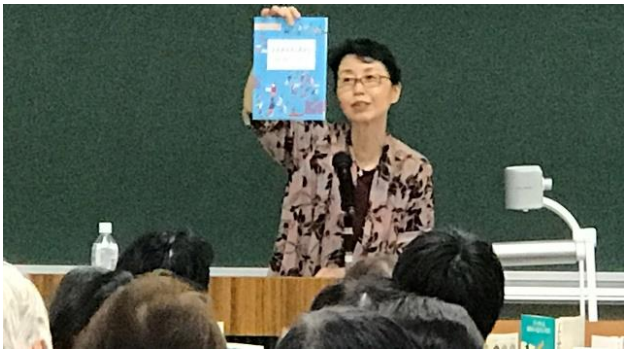
●留学・卒論・就職をとおして出会った人と本
〇ウェスタン・ミシガン大学：1903 年創立の州立大学。大学のあるカラマズーは、シカゴとデトロイトの中間にある、目抜き通りが 1 本というような小さな町。

アメリカ児童図書館の先達　　張替恵子「こどもとしょかん 77 号」1998 年・春
『風にのってきたメアリー・ポピンズ』P・L・トラヴァース作　林容吉訳　岩波書店

「アジアの昔話」とユネスコ・アジア太平洋地域共同出版計画
松岡享子、松居直、田島伸二「こどもとしょかん 157 号」2018 年・春

〇松岡享子：翻訳家、児童文学作家。1974～2015 年 当館理事長、現名誉理事長
翻訳に「ゆかいなヘンリーくんシリーズ」（ベバリイ・クリアリー作　学習研究社）、「くまのパディントンシリーズ」（マイケル・ボンド作　福音館書店）、創作に『くしゃみくしゃみ　天のめぐみ』（福音館書店）、著作に『サンタクロースの部屋』（こぐま社）ほか多数。
『子どもと本』松岡享子著　岩波書店
『ブータレとゆかいなマンモス』デリク・サンプソン作　張替惠子訳
『黒ネコジェニーのおはなし』１・２ → 全３巻
エスター・アベリル作　松岡享子、張替惠子共訳　福音館書店

●日野市の秘書から日野市立図書館の司書へ
1965 年、1 台の移動図書館「ひまわり号」から活動をスタート。牽引役は 1963 年に発表された『中小都市における公共図書館の運営（中小リポート）』（日本図書館協会）作成の中心メンバーであった有山崧（市長）と前川恒雄（館長）。
『子どもの図書館』石井桃子著　岩波書店



●東京子ども図書館へ
もういちど夢を見ることができるか――東京子ども図書館を次の世代へつなぐために
松岡享子「こどもとしょかん 57 号」1993 年・春
小さな「民」から大きな「官」への異文化体験
張替惠子「こどもとしょかん 106 号」2005 年・夏
『大きなたまご』オリバー・バターワース作　松岡享子訳　学習研究社 / 岩波書店
〇東京子ども図書館のブックリストの系譜
1966 年『私たちの選んだ子どもの本』子どもの本研究会　→1978 年　東京子ども図書館
2004 年『子どもの本のリスト――「こどもとしょかん」新刊あんない 1990～2001 セレクション』
2012 年『絵本の庭へ』（児童図書館基本蔵書目録 1）
2015 年『今、この本を子どもの手に』
2017 年『物語の森へ』（児童図書館基本蔵書目録 2）
2020 年刊行予定『知識の海へ』（児童図書館基本蔵書目録 3）

●子どもと本の幸せな出会いのために
『イギリスとアイルランドの昔話』石井桃子編訳　福音館書店

〇昔話は、その残酷さという苦味をも含めて、またとない子どもの心の糧なのです。

～『昔話は残酷か――グリム昔話をめぐって』野村泫著　東京子ども図書館

〇絵本を読み聞かせてもらう時、子どもはお話を聞きながら、絵の助けを借りて、自分の前頭葉の中に想像の世界を作り上げていきます。それは「言葉を聞く力」の始まりであり、「人間の言葉」を獲得していくための大切な第一歩です……

～『メディアにむしばまれる子どもたち』田澤雄作著　教文館

『えほんのせかい こどものせかい』松岡享子著　日本エディタースクール出版/文春文庫

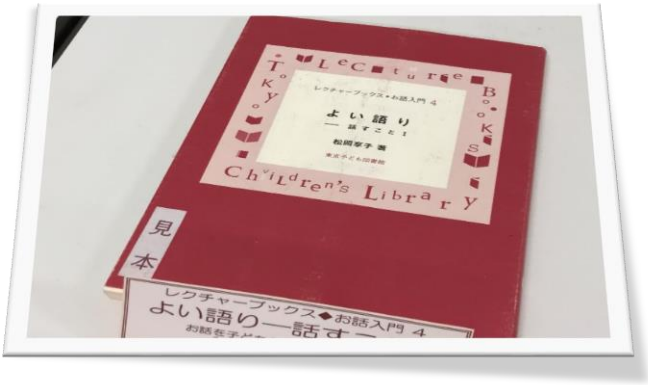
『よみきかせのきほん――保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』東京子ども図書館

〇目のまえにいる子どもをたいせつに考えよう。子どもたちの心にふかいかかわりを持つはずの児童図書館員の身分を尊重しよう。そして、子どもの本と読書に関心をもつ人たちは、はげましあい、助けあっていく必要があるだろう。

～児童図書館への願い　石井桃子「図書館雑誌」1964

再録『新しいおとな』河出書房新社

まとめとして、「読書は読解力を身につけるためのものではなく、楽しく、心を太らせるもの。私たちはそのために何をするのか、ということが大切です。」とういう言葉で締めくくられました。



「講演会　　講師　張替　惠子氏を囲んで」の概要

今回の交流会は、講演会講師を囲んで、参加者にそれぞれが関わっている読書支援の立場から、日頃感じていることや悩んでいることなどを発表していただき、講師より助言をいただきました。「教育の協働」（協育）を進めるためには、同じ思いを持つ仲間が「高まり、繋がり、広める」ことが大切だと思います。同様に講演会などにおいても、講師から学んだことを個人の学びにとどめず共有し合うことで、その学びはより一層深められるのではないかと思い企画いたしました。

今回、定員をオーバーする申し込みがあり嬉しく思う反面、お断りした方々には大変申し訳なく思っています。

＜交流会でのＱ＆Ａ＞

Ｑ　子どもが、絵本などよりも映像（YouTube やテレビ）で情報を得るこの時代に、絵本にどうアプローチすべきなのか

Ａ・現代は環境が大きく変化している。絵本好きは絶滅危惧種？と言われるほど。とはいえ、絵本には絵本にしかないよさがあるので、仲間を作るなどして、読書の素晴らしさを発信していけるとよい。

・読書支援に携わる人たちが、子育て世代の親御さんたちに「これがいいんじゃない？」（読み聞かせは楽しいよ！こんな絵本がいいよ！）と言い続ける。

・今、その思いのある若い人たちが、共に考え、学び、広め、若い感性を大切にしながら次の世代へと途切れることなく読書の素晴らしさを伝えていって欲しい。

Ｑ　図書館に『<u>キャラクターもの</u>』（アンパンマン，トミカ，プラレール）が蔵書として置かれているがその扱い方はどうなのか。

Ａ　・蔵書を見るとその図書館や図書館員の質が見えてくる。外部の人間の言うことがすぐにとおらないかもしれないが、図書館員との信頼関係を保ちながら、図書館に話してみるのも一つの手では？

Ａ　・図書館の選書は一人でするものではない。仲間と連携して選書することが必要である。そうすることによって、本に対しての気づきや考えも深まり、また選書の幅も広がる。

Ｑ　（ブックトークについて）モチベーションが下がった時、どうしたらよいか。

Ａ　・誰だって迷いは生じる。少し休んでエネルギーを蓄えるのもよし。逆にそんな時こそ自分自身を追いつめ、目標に向けて新しいものをつくることで、新たなモチベーションを得ることもできる。東京子ども図書館でも「ブックトークの会＆蚤の市」や「ブックトーク・ワークショップ」など

元気がもらえる催しを行っている。
・ブックトークの依頼がある時は、好機ととらえ、前向きに引き受けてみては。

Ｑ　「ブックトーク」をしていて、いろいろな壁にぶち当たる。
忙しくて読む暇がないのか、読めないのか読まないのか、子どもたちは、最初から終わりまで全文を読んでもらいたがる。また、子どもがその本に手を伸ばそうとしない。

Ａ　・子どもたちにブックトークの感想（どの本に興味を持った？読みたいと思った？）を無理に聞くなどしないで、ブックトークをした本を教室に置いておくなどして、子どもたちが実際すぐ手にとれる工夫をする必要がある。ある学校では、ブックトークをした本を全クラスに展示するという取り組みをして、よく読まれているそうだ。
・ブックトークした本を誰もがすぐに読んでくれるなどと期待しすぎないで、ひとりでも読んでくれたらバンザイ！という気持ちでいい。

Ｑ　新しい本を読むときにどうやって選書するか。

Ａ　・まず自分が「楽しめること」「読みたいな」と思うことが大切である。
・子どもは、昔に書かれたものでも面白いと感じれば読む。子どもの選書の感性を信じて本選びをするということを心がける。大人が、子どもに何かを教え諭したい本ではなく、楽しんでくれるだろうと思えるものを選ぶことが大切である。子どもの感性に寄り添いながら読んでいくと、何故それが面白いのかが分かる。大人は、長い間読み継がれてきた本とたくさん出会い、自分自身の感性を磨いていくことが大切である。

Ｑ　自分自身のことだが、読書は必要だ、よいことだとは思うが、本を読むことがなかなか続かない

Ａ　・「読まなくちゃいけない」と思わなくてよい。一冊でも好きなものに、これから出会えればよいのでは。

Ｑ　読み聞かせには、集団を対象としたものもあり、最近は多くの場所で行われているが、子どもと肌を合わせ寄り添って行う両親、祖父母による読み聞かせが大事なのではないかと思うが「読み聞かせの力」をどのように考えたらいいのか。

Ａ　・「読み聞かせの力」は、子どもを本の世界に誘うときに、大人が橋渡しをして楽しんでもらうことにある。方法はどうあれ、子どもと本を結ぶための最初の段階として、親も含めて身近な大人の役割は大切。

Ａ　・本のない時代に人がどう過ごしてきたか、そのことに思いを馳せて欲しい。文字もなく、親と子が目を合わせ、声にのせて言葉を交わしてきた遠い昔から言葉は耕されてきた。その過程で、「わらべうた」や神話や昔話が生まれた。これら口承の文芸は無形文化財であり、紙に文字が印刷された本は有形文化財である。人類がたどった言葉の発達に添って、つまり、声の文化をたっぷり楽しんでもらいながら、子どもに文化財を手渡していくことを心がけてほしい。

＜まとめ＞
〇人間の成長において、何がその人の力になるのかは誰にもわからない。絶対というものはない。マンガやゲームもそれが生きがいになる人もいる。
本と関わる者として、本があったら豊かになるよ、楽しいよ、というスタンスで活動していくことがよいのではないか。

参加者の感想

今回の講演会に参加していただいた方々からの感想や、これからの自分の活動についてのご意見を多くいただきました。講師　張替恵子氏の生き様からの「本への想い」、「今の時代の本の大切さ」「子どもたちに本をどう出会わせるか」など、１つ１つを噛みしめながら多くの学びをいただきました。
以下に、ほぼ原文でその感想をまとめてみました。

＜午前中の講演会に参加して学んだこと＞

１．あなたの今後の活動へ参考になったことなどをお書きください。
（１）講師自身の思いや活動からの学び
・先生のこれまで歩んでこられたことのお話はとても参考になりました。
・先生のご自分の現在に通じるストーリーを聞かせて頂き感動致しました。
・先生の人生を通して影響を受けられた良い本をご紹介いただき、今後自分と子どもの糧としていきたいと思います。
・東京子ども図書館は日本の児童図書館のリーダー。そこで活躍されている張替先生のお話はすべて参考、勉強になりました。選書の大切さを今一度確認しました。
・先生のお話の中の「何事も始めるのには遅すぎることはない」という言葉に感銘を受けました。今、自身、子どもに対して反省し、今から子どもの為に応援してやりたいという気持ちでいっぱいです。とても嬉しい言葉でした。ありがとうございました。
・図書館の歴史や児童書を中心として知ることが出来ました。お話会のあり方も考えさせられました。
・先生の歩みを通して、子どもに良い本をつなぐことの大切さがわかりました。

（２）本の魅力について
・「読書は楽しい」「子どもたちは毎日が新しい体験」を改めて認識しました。心にとめながら、子ども達に楽しさと、良い本を手渡していくよう頑張りたいです。
・昔からの本を子どもたちにもっともっと聞かせたいと思いました。

（３）子どもに本を届ける大切さについて

- 改めて子どもに本を届けることの大切さを感じました。良い絵本を、子どもたちに記憶に残るよう、楽しみながら読み聞かせをしようと思います。
- 子どもたちに本のおもしろさを伝えていく活動を人から人へとつなげていきたいものです。
- 昔から読まれている本はみんな知っているのであえて読まない、と言っていた人がいて、友人が、よく読まれている本こそ子どもたちに届けてほしい、と話していたのですが、その事がよくわかりました。受けねらいの本を読む人が多いので、私は王道を！と、そして他の人にも伝えたいです。
- ユーモアを交えてのお話はとっても楽しかったです。本と子ども、親、先生とのつながりをする役割をしながら「本」の楽しさを伝えていく事の大切さを更に強く感じました。

（４）子どもに本を届ける心得について

- 「１０人子どもがいれば、その中で読書家になるのは１人か２人。図書館で一番大切なのは本を選ぶこと」という言葉にたいへん励まされました。
- “毎日育っている子どもたちとどのような本を結びつけるかは大人の責任”面白さに流されず、本物を伝えられる、語れる大人になりたいです。
- “本物”の本を伝える。生の声を伝える（大人が子どもに本物を伝えるには、常に学習を続けること）。本の歴史を知り、良い選書に心がける。
- 選書の大切さ、読み聞かせをする私たちがもっとたくさん本を読んで互いに研究しあうことが必要なんだなと思いました。
- 読み手として、選書の大切さを感じたので、もっと学ぼうと思いました。グループに持ち帰り、共有したいことがたくさんでした。言葉で伝える大切さを、活動を続け、広めていきたいです。
- 「現代人は勉強し直さなければいけない。理論武装して、本当のものを伝えていって下さい」という言葉を肝に銘じ、子どもの読書に関する様々な資料を読み、勉強し、芯を持って活動していきたいと思いました。
- 「語る」という事を大事なことだと思いました。
- 本と、子どもたちをつなぐ活動の基本を改めて考えさせていただきました。特に「言葉」がもともとは音であったこと、語りの大切さを教えていただきました。「つなぐ」ことの大切さを、いつも心において活動していきたいと思います。「読めないなら聞かせてあげればよい」という言葉が印象に残りました。
- 本を選ぶことの大事さ、楽しさを伝えられたらと思って読み聞かせをしていきたいと思っています。
- 「本が楽しい」ことを伝え、読むことが苦手な子どもには読んであげる。目の前にいる児童に向け、頑張っていきたいと思いました。勉強を始めて司書になってから２年で（年はとってますが）まだまだ駆け出しです。知らない事も多いですが、良書を選書ができるよう学びたいと思います。ありがとうございました。
- 良い本を選ぶこと、語り手の大切さを改めて意識させられました。最後の映像・・子どもたちの笑顔をもっともっと広げられるように、大分でも展開していけたらと思い、大変参考になりました。
- 非常に参考になったことは、自分自身が本を好きになり、心から信じて、伝える事だと感じました。

（５）選書の大切さと心得について

- 今、幼稚園で仕事をしているので、本物の本と子どもたちがたくさん出会えるように、読み聞かせの本を選びたいと思いました。
- 現在、小学校の図書館で仕事をしているので、もっと選書に対しての意識を高めていきたいと思っています。お話、児童文学に関わる知識もですが、科学や情報収集の仕方など、多岐に渡る本の知識を１人で地道に身に着けていきます。時間がいくらあっても足りません。ブックリストは参考になります。
- 良い本を図書館に揃えていきます。本選び頑張ります。
- 絵本を選ぶのに参考にしたいと思います。
- 読み聞かせに行かれる方のサポートや、私自身が仕事や子どもの学校に読み聞かせに行くことがあります。本を選ぶ際に、よく「おもしろいものを」と言われる方が多くなり、とても気になっていました（子どもたちにうけるために）。先生がおっしゃっていたように、「上品な昔からある良いお話」を子どもたちに届けていきたいと思いました。
- 良書を読み聞かせに持っていきたいと思いつつ、本選びをしていましたが、ついつい子どもの笑いも考えてしまっている自分もいましたが、今回の先生のお話を通じて気持ちを新たに、また子どもたちに本物の良い本を届けたいと思いました。
- 小学校に行って読み聞かせしています。外国の絵本は絵が日本の絵本と比べて暗いイメージで余り取り扱わなかったです。これから目をつけてみます。
- 選書の大切さを改めて感じました。
- 「図書館で一番大事な仕事は本を選ぶこと。」という言葉が印象的でした。
- 選書の大切さがよくわかりました。目先のおもしろさにとらわれず、子どもたちに良い本を届けられるようにしたいと思いました。
- いつもは絵本を中心に読み聞かせを行っていますが、今日は本に関する深いお話を聴くことができてこのことは先々、選書のとき読み語るときに役立つと思います。「図書館の大切なことは本を選ぶこと」印象的でした。これからも本選びに心を込めようと思います。
- 本は、絵本は、見ておもしろい、楽しいという事を知ることが何より大切で、読み聞かせをしている私としては、良い本（ここが考えさせられるところだけど）を、それなりに勉強しながらと、思っています。紹介される本は私の参考となります。ありがとうございます。講演会に出席することは、大切な事を忘れないよう私の勉強となります。
- 小学校で読み聞かせをしています。いかに本選びが大切かという事を改めて思い知りました。心を太らせる本を選びたいと思いました。
- 以前先生の講演をお聞きして、大変感銘を受け、即受講を決めました。小中で支援員をしていますが、子どもと接していると今どきの子どもが好む本に選書が流れていく気がします。そのジレンマの中で、先生のお話は選書の大切さのコアの部分を伝えてくださる貴重なお話です。今年は子ども図書館に行くと決めました！
- 自分も楽しみながら、子どもたちがこれはおもしろいと思ってくれるような、大きくなって思い出してくれるような本に出会うように選書をしていきたいです。
- 選書の大切さを改めて感じました。良い本を選ぶ目を私たちが持つ事が大切で、その為には私自身も

っと勉強していかなければいけないと痛感しています。本っておもしろいという事を子ども達に伝えつつ、本物と出会う為の橋渡しができるよう努力していきたいと思いました。

（６）自分自身を振り返ってみて思うこと

- 「間違ったことはしていない。」どれだけのことをできているのか、できていないのか目に見えてわかることは少ないけれど、子どもたちと本を信じてこの活動を続けていこうと思いました。微力だけど、無力じゃないと元気を頂きました。
- 我が子への読み聞かせを再度行ってみたいです。仕事に生かし、子どもたちに読む絵本選びの見つめ直し、忙しくても読み聞かせの時間を意識して作ります。
- 難しいですが、良い本をたくさん読みたいと思います。
- 子どもと本を結ぶ私たちが、一番大切にしなければならない事を改めて確信しました。
- 絵本だけではなく図書館のあり方、目的等についても考える、知ることが出来てとても良い機会でした。
- 今、小さい人たちや小学生に向けての読み聞かせをしていますが、自分たちの活動をもう一度見直す機会となりました。子どもたちに絵本の楽しさを伝えていくことが一番大切なんだということを改めて実感させられたと同時にもっと勉強していく必要を感じました。
- とても楽しい講演でした。初心に戻って、子どもたちに本を届けたいと、本の楽しさをただただ伝えようと思いました。
- 勤務する学校で読み聞かせの土壌が全くないのですが、やはり１人からでもその必要性を訴えかけていきたいです。ありがとうございました。
- 選書と蔵書構成が大事なこと。そして本を知っていくこと、その研修が積みあげられない現在の司書のシステム、すごく痛感しています。ある程度仕事をしてきて、自分の力の無さ、後輩に伝えていくことの難しさ、改めて考えていきたいと思いました。
- 読み聞かせをしているメンバーとのつながりが必要だったことに気が付きました。
- 自分が本を楽しんで、読み聞かせを続けていきたいと思います。子どもと本をつなぐお手伝いをしていきたいです。
- 子どもに勧めるためには、もっと自分がいろいろと読まないといけない。知らない本が多くあったので、まずは自分で体験しないといけないと思いました。
- 子どもたちがもっと本を楽しめるように、自分が最大に出来る事を探したい、関わりたいと思いました。自分自身、もっと学びたいと感じました。
- これから読書をするときに本を選ぶ参考になりました。子育て中に子どもに本を読んでいましたが、もう一度子育てをやり直せるならもっともっとたくさんの本を読んであげたいです。自分自身もこれからの人生を豊かにするために「心を太らせてゆきたい」と思いました。
- 選書に力を入れるという自分の読み聞かせの方法に間違いないと改めて思いました。
- 本選びが自分の課題でした。講演会で答えを聴くことができ、本当に嬉しかったです。
- 基礎知識を学ぼうと思いました。

（７）その他の感想や思い

- 「子ども図書館」に一度、参加しました。又、お話を聴けて良かったです。
- 刊行予定の「よみきかせのきほん」を楽しみにしています。
- 楽しかったです。元気が出ました。
- 大変参考になりました。
- 蔵書が大事、読み聞かせの大切さ、昔話の大切さなど多くのことが学べました。
- 今やっていることが肯定され、応援して下さっていると元気をもらえました。

（８）事務局の方へ

- 読み聞かせでの本を選ぶ際についての指針をもらえたらと思います。
- 日本の有名なおすすめ本についても聞きたかったです。
- 先生の本との出会いのお話も良いのですが、子どもたちへの本を手渡すためにどんな努力がいるのか聞かせて欲しかったです。一度では時間が足りないと思います。何度かこれからも勉強する場を作って欲しいと思いました。

２，その他、講演会についてのご感想をお書きください。

（１）全体的な感想について

- ２時間があっという間でした。ありがとうございました。
- すばらしい講演会をありがとうございました。
- 楽しく聞かせていただきました。
- 講演内容がとても素晴らしくて、参加させて頂き良かったです。
- 学生にという最初の言葉でしたが、人生の終わりごろを生きている私たちにもとてもヒントをたくさんいただきました。
- 学生に向けての内容がわかりやすく楽しかったです。
- 私たち大人も、子どもたちに本を届けるためにもっと勉強して、大切な時を過ごしていきたいなと思いました。本日はとても素敵なお話をありがとうございました。一図書館人として、本を選ぶことの大事さを改めて考えさせられました。
- これから「本は楽しいね！」と思ってもらえる図書館を目指したいです。読み聞かせについての話がおもしろかったです。
- とても楽しく、自分の仕事に対する想いが強くなる、素晴らしい講演でした。
- 先生のお話、ＤＶＤはとても「読み聞かせ活動」への励みになりましたのは勿論のこと、学生さんの司会や読み聞かせやお礼の言葉にも感心し、とても心に残りました。ありがとうございました。
- とても楽しい講演会でした。先生自身のお話、図書館、読書に関するお話、すべてが自分のこれからの活動に役立つ内容で、参考になりました。ありがとうございました。
- 一生懸命お話が聞けました。楽しく時間がたちました。本物の本選びは難しく思いました。大事なんだと感じてます。時代に流されない本当の本選びが大切です。
- ネットワーク作り、大切ですね。
- 本物に出会う、伝える、この事が子どもたちの成長に本当に必要なことだと感じ、大人が気が付き出

会えることも大切だし、その作業をどうするかを考える時となりました。
- 張替先生の講演会に参加でき、とても嬉しく思います。参考になりました。ありがとうございました。
- 大好きな張替先生のお話を聞けて、とても嬉しいです。改めて子どもと本をつなぐことについて思いを新たにしました。ユーモアも交えた、本当に楽しい講演でした。感謝しています。
- 明るい先生のお話しぶりが大好きです。大切なことを再確認できる、こういった講演会は常に必要だと思います。本当に、若い方に聞いて頂きたいです。
- ありがとうございました。学ぶことがとても多かった講演会でした。子ども達と一緒に、本を楽しみたいと思います。
- 小６の女の子から図書館で、「今や、本もデジタルで読む時代ですよ、本なんか古いじゃないですか」と言われました。本を読むのが苦手なその子に、一番必要なことは何だったのか。隣で読みたい本を読んでくれる人の存在だったのか。反論はしたものの、自分の非力さに打ちのめされています。目の前の子に適切なタイミングでもっと手渡せる大人でありたいです。
- 絵本の素晴らしさ、言葉は聞くことから・・・、人類の過程、子どもが出会うものは常に新しい等、多くのことを学びました。
- 先生のエピソードを伺いながら想像し、自身の本との出逢いからと重ねながら楽しく聞くことができました。地域とのつながりの大切さを感じているので、少しずつ絵本の輪が広がる様について、先生のお話の内容をいろいろな方に伝えます。「読み聞かせの基本」の発行を心待ちにしています。
- とても楽しく聴くことができました。そしてすぐにくじけそうになる気持ちを、張替先生のお話を聴くことで、立て直すことができました。またすぐにくじけそうになるかもしれませんが、また思い出しながらこの先もずっと図書館員として、子どもから大人まで生涯の読書に携わっていきたいと思います。ありがとうございました。
- 本離れ・・とよく言われますが、（随分と前から）本は楽しい、読むのは楽しい、をもっと伝えられるようにと思っています。元気が出てきました。今日は交流会にも残りたかったのですが、残念です。次回にはぜひ交流をしたいです。
- 生の声で語られる言葉はとても重みがあって、今日来て良かったです。図書館で働き始めたときの気持ちも思い出せました。ありがとうございました。
- 文字離れが言われる昨今、図書館のあり方、なんなんだろうと思う。締めくくりの言葉、一心にしみました。これからの自分の指針にします。

（２）講師の先生について
- お人柄がおだやかで楽しいことがお好きそうな感じが講演をされる先生に表れていて、そのことが子どもの本に関わる方の姿だなと思い、それがとても素敵でした。
- 張替先生の講演、人柄が出ていて明るく楽しく聞けました。ストーリーテリングも大変楽しかったです。
- 先生の人生を通して、図書館活動の歩み、子どもをとりまく環境の変化を学習することができました。
- 様々な思いで活動をされている事や情熱を感じました。貴重な経験を知る事が出来て、とても良かったです。これからも伝えていただきたいと思いました。私も微力ながら行動したいと思いました。
- とっても熱意を感じました。また会いたいです。

・大変心に思う事が多かったです。先生の人生に無駄な経験はないと思いました。

（３）子どもに本を届けることについて

・東京子ども図書館の子どもに本の楽しさを届ける、本を好きになって欲しいという事に改めて感じ入りました。どうしても昔からの良い絵本は、図書館でも書庫に入っていることが多いことは私も実感しております。良い絵本を選ぶことの大切さは、皆さん感じてらっしゃることがよくわかりました。
・子どもたちに本を手渡していく、つなげていくには、多くの人たちの地道な努力、積み重ねがあったことに驚き、感動しました。先生の活動に頭が下がります。
・「絵本は楽しいものである」という事を再確認しました。「本物を伝えること」につなげます。
・多くの体験を通じて、良い本に出会うことの大切さがわかります。子どものために、どんな本が良いのか話し合わなければ、と思いました。
・目新しいものではなく本物を知って伝えていくことの大切さは「目からうろこ」でした。子どもたちに本物を伝えていなかったと反省しています。もっと早くお聴きできていたなら、自分の子育てに生かせたと思います。
・絵本は教材ではないので楽しむという方へ向けてほしいという言葉は、とても勉強になりました。
・本の選び方が大事なこと、本物を読むことが大事であることを学びました。ありがとうございました。
・大分に図書館が無かった頃から子どもたちに本との出会いの場を作ってまいりました。本は子どもたちの宝物だと思います。手渡す大人がひとりでも多くなることを願ってます。大変参考になるお話を聞けて嬉しかったです。

（４）講演会の内容について

・「子どもをとりまく環境に、助けてくれる大人が必ずいると伝えてほしい」とまた言われたな、と思っています。
・「三びきのこぶた」を語っていただいて、とても嬉しかったです。高校生になる娘にも、遅ればせながら読み聞かせてみようと思いました。
・「三びきのこぶた」のお話しは、引き込まれる話し方で、素晴らしかったです。
・「三びきのこぶた」の語りは素晴らしかったです。
・「三びきのこぶた」の語り、素晴らしかったです。
・公共図書館（今ボランタリー）新しい図書館、公共図書館の運営に関わるお話を伺えたことは意味深いものを感じると共に学ぶことがありました。感謝です。
・本を創る人、読む人、その間をつなぐ人、それぞれが大切な役割があり、そのどれかが欠けても成り立たないものであることを改めて知りました。貴重なお話をありがとうございました。
・張替先生のストーリーテリング、すごく楽しかったです。
・先生のお話は楽しかったです。読書は、「心でふくらませる自由」というお話が特に印象に残りました。
・「本物を読むことに専念する！」。疑問が解けました。
・日本の子どもたちへの本を手渡す歴史が知れて、参考になりました。
・張替先生の豊富な体験、昔話の対応への考え方等大変参考になりました。「三びきのこぶた」の読みも大変参考になりました。

・学生の読み聞かせから、表情、笑顔はとても大切だと思います。活字離れをどうしたらいいか、幼少の頃からの事とかを聞きたかったです。
・自分の無力さや劣等感が悪いのではなく、それが無いことを知り、学び、これからの自分の幅や奥行きを作れば良いと学べた事はとても良かったです。

（５）講演会の運営について

・学生さん対象に話すとおっしゃったように学生さんがもっとたくさん聞いたらいい、お話でした。本の大切さは、本当にそうですね。そう思います。
・せっかく大学なので、教員のたまごは是非、来てほしいです。
・講演会だと思って参加しますと、大学生が受講、そして読み聞かせ等、運営もされている様子を見て、とても素晴らしいと思いました。子どもと本を通じて関わる仕事は多様で、とても楽しいです。これからの世の中を担う若い方と一緒に聞けたことも有意義でした。
・また、児童文学に関係する先生を呼んでください。
・準備も良く、会もスムーズで良かったです。

＜午後の交流会に参加して学んだこと＞

１．あなたの今後の活動へ参考になったことなどをお書きください。

（１）講師の先生から学んだこと

・現在の課題についての悩みを、笑顔で答えてくれる先生を見ていると、何事も「どうにかなるかな」という軽い気持ちになりました。
・先生の公共の図書館の有りようを深く学ばせて頂きました。歴史の深さに感動致しました。
・東京子ども図書館の素晴らしい活動を見せていただき、嬉しくなりました。子どもの本の出版に対してこんなにつまらない本ばかりでいいのだろうかと心配していましたが、東京子ども図書館の活動に安心しました。これからも頑張って下さい。

（２）読み聞かせについて

・絵本の読み聞かせについて、率直に語っていただいて、「統計取れない」がそれもそうだと納得いたしました。もっとお聞きしたいこともありました。

（３）子どもに本を届けることについて

・子どもと楽しい時間を共有する。「～しなければ」ではなく、ただ楽しむものという視点を大切に続けていきたいと感じました。
・感情を磨いていくために、何十年も読み継がれていたものを選び、仲間と読み合い、声を出し合って高め合うことの大切さを考えました。
・本は有形文化財、言葉は無形文化財。何よりも大切な事は、言葉を知らない小さな子ども時代を共に目を見つめ合って過ごす事→語り→本の楽しい世界へと・・。今日はありがとうございました。東京子ども図書館、遊びに行きます。

（４）これからの本との関わりについて
・本を選ぶことは難しいですが、児童書も含め良い絵本と言われるものを今一度沢山読んでみようと思います。
・感情を磨いていくために、何十年も読み継がれていたものを選び、仲間と読み合い、声を出し合って高め合うことの大切さを考えました。

（５）その他の感想
・本を媒体としての活動は本当にたくさんあることを知らせてもらいました。
・最近、読み聞かせの会を始めたので、勉強が必要だと思っています。
・都合により交流できませんでした。活字から逃げないで、本が好きになる子どもが増えることに大変参考になりました。
・張替恵子先生のお話を聴くことが出来、とっても有意義な時間を過ごすことができました事を感謝致します。ありがとうございました。
・子どもも、自分も楽しく本を読む、原点を大切にしたいと思いました。
・具体的なことが聞けてよかった。わらべうたの大事さが言われるのがわかった。

（６）交流会の運営について
・再認識する事が多かったです。参加させていただきありがとうございました。スタッフの皆様お疲れ様でした。

（７）教えてください
・「アンパンマン」などとても人気があるので、子どもにとって良い面もあるのではないでしょうか？
・子どもに読み聞かせしてきたたくさんの絵本を始末しようかどうしようと迷います。とっても良い本もあるので捨てるのは惜しいし・・どうしたら良いでしょうか？

２．その他、交流会についてのご感想をお書きください。
（１）全体的な感想について
・学生さん達のお話も楽しかったです。
・良いお話を聴けました。
・参加できて良かったです。ありがとうございました。

- ブックトークをしてる方、読み聞かせをしてる方、学生さん色々な方のご意見を聞いてそれぞれの悩みや考え方がよくわかりました。
- 専門的な内容にはややついていけませんでしたが、皆さんの熱を感じました。ささやかでも、子供たちへの読書へ貢献出来ればと思います。
- 読み聞かせに関わる人々の考え方、捉え方、聞ける機会を得て良かったです。
- 先生、皆さんの質問を聞かせて頂き、視野が深まりました。今回の交流会を通して感じるものがありました。
- 良い刺激をもらいました。ありがとうございます。
- 県、市の図書館の職員の方々も参加してほしかったです。子どもに本の楽しさを届けるのは先に生まれた大人たちだと思います。もっともっと、子どもに本の良さを大人から伝えたいと思いました。
- 学童の支援員をしています。子ども達とともにこれからも学んでいきたいと思います。

（２）講師の先生について

- 先生の体験やお考えを自分の考えの中に何か取り入れてみたいです。
- 先生の気さくなお人柄に触れて安心しました。

（３）交流会の内容について

- 最後の高速バスの子どもとのふれあいの話は出産を間近に控えた娘に聞かせたかったです。伝えます。

（４）交流会の運営について

- 最後の方で、元気よく手をあげられた方がいましたが、発言できなくて残念でした。

（５）その他の感想

- ブックトーク、ストーリーテリング（挑戦しましたができませんでした）等やっていませんので、ちょっと視点が異なると思います。大学生５名も参加でき、正統派の話を聞く事ができたと思います。私たちは文庫（４名）子どもたちが文庫に来なくて困っています。又地域全域でも子どもの本に対する無関心に憤慨している状況です。と云うのも、わたしは児童文学が好きで、子どもとのつながりを持ち、子どもとの関係で絵本、紙芝居を楽しむ時間を持ちたい、そういう心の追い風になる様な内容の講演を聞きたいといつも思っています。

＜参考＞

今回の参加者は 102 名でしたが、学生が５名と少なく、社会人の方の感想の中で「将来親になる若い人たち、将来、教員になる教育学部の学生さんに多く参加して欲しかった」という声がたくさんありました。

参加者の年代では、６０歳代が一番多く、５０歳代、４０歳代、３０歳代となっています。また、参加者のほとんどが女性であり、我が子への、そして今の子どもたちへの「本との出会い」の活動をしている方々の様子がうかがえます。

図１　参加者の年代

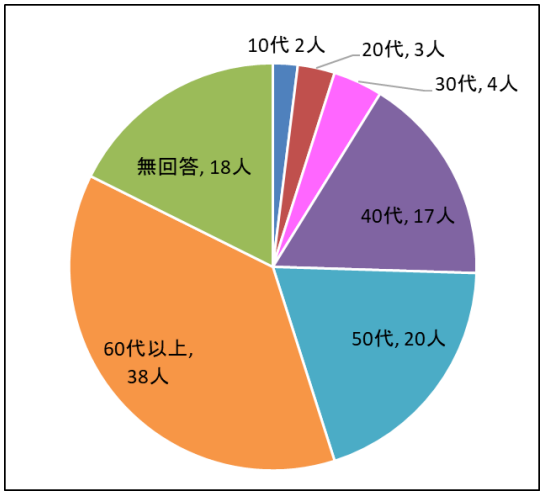


図２　参加者の性別

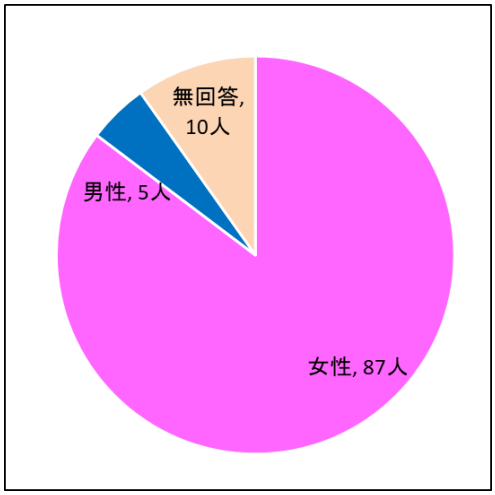
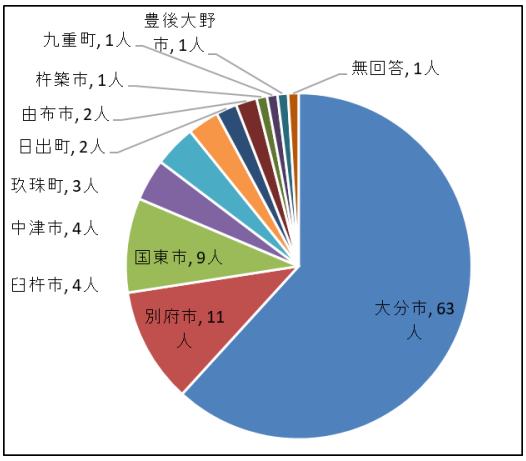


図３のグラフから分かるように、会場となっている大分市の方々だけでなく、多くの市町村からグループで、個人的に参加していただきました。全国的も活動が活発になっている「子どもと本との出会い」を進める取り組みが、大分県においても全域で進められていることがうかがえました。

図３　市町村別参加者数



＜あとがき＞

今回の講演会に多くの方々にご参加しただき感謝いたします。定員をオーバーする申し込みがあり、お断りした方々には大変申し訳なく思っています。また、参加していただいた方々からの「関係者のネットワークづくり」や「情報の共有」のために、「これからもこうした機会をもうけて欲しい」という声もいただきました。今後も、「学・民」が連携し、「子どもと本の出会い」を進めておられる方々と一緒になって取り組みを続けて行ければと願っています。

第２部　第１回からの「こどもと本を結ぶあなたへ」の講演会を振り返って

テーマを「子どもと本を結ぶあなたへ・・・」とした年１回の講演会も、今回の『子どもと本の幸せな出会いのために私たちができること』で６回目となりました。

１９９８年８月、衆参両議院会議において、２０００年を『子ども読書年』とする決議が採択されました。その前後から各地、各機関において「読書ボランティア」の育成が行われてきました。現在もそれは続けられており「子どもと読書」に関するボランティア人口は確実に増えてきています。そして、年数と経験を重ねていく中で、喜びとともに多くの悩みも持つようになりました。「子どもたちにどのような本を読んだらよいのか（選書）」「どのようにして子どもたちに本をつなげていったらいいのか」など悩みは尽きないようです。

そうした中、大分大学高等教育開発センターの社会人指導者養成講座から育ったＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネット（２０１１年設立）は、２０１１年「富士見が丘プロジェクト」（大分市　富士見が丘幼稚園にて）での「環境」とコラボした読み聞かせを皮切りに、２０１１年から２０１３年にかけては、「ブックトーク」を大分市立春日町小学校と大分市立明野北小学校で行い、また、２０１２年には、大分市の１％応援事業として「パパ！出番です！！　イクメンの読み聞かせ教室」を開催しました。さらに、学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」を結成し、子どもルームや小学校また育成クラブ、商業施設等いろいろなところで読み聞かせをしてきました。

そのような活動の中、ボランティアのステップアップのために何かできないかと考えていたところ、６年前、知人から「あまんきみこ」氏を紹介され、講演会「子どもと本を結ぶあなたへ・・・」を大分大学、大分大学図書館、「協育」ネットの共催で開催しました。以後、第２回、第３回、第４回、第６回は大分大学と「協育」ネットの共催で開催し、大分大学高等教育開発センターと、ＮＰＯ法人大分県「協育」アドバイザーネットの社会人指導者養成事業として継続してきました「子どもと本を結ぶあなたへ・・・」のまとめとして、以下のように整理をすることとしました。

第１回目は童話作家の「あまんきみこ」氏、第２回目は**大野城まどかぴあ理事「川島久美子」氏をお招きして**、まず、「童話」や「語りの世界」そのものの魅力について直接感じていただくための講演会を企画しました。

【第１回（２０１３年１０月３０日）】
講師：童話作家「あまんきみこ」氏
演題：「童話作家の想い　　～一冊の本ができるまで～

第１回のあまん氏の講演会「童話作家の想い～一冊の本ができるまで～」には、大変多くの方々の申し込みをいただき、アンケートでは「作者のお人柄と作品が重なった」「作品はその人その人の人生で読めばいいという言葉に感動した。」「作者の絵本への思いがよくわかり、今後の参考になった」などの感想をいただきました。

（＝報告集＝教育の創造～地域「協育」のススメ～より）

講演会後のグループ形式でおこなった交流会にも多くの方々のご参加をいただきました。個人で活動している人、グループで活動している人、それぞれの立場からの意見や悩みがあふれ、熱い思いで日々活動されていることが手に取るように感じられました。その熱い思いに、私どもはただただ圧倒されました。予想通り選書や読み方についての悩みが多く、解決に至らなかったことも多々ありましたが、参加者同士で現状を共有することができ、これからの活動の参考になったのではないかと思います。

この講演会、交流会を経て、読み聞かせネットワーク「ゆい（結い）」を結成することができました。

スタッフとして講演会・交流会に参加する学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」

にこやかに受付

あまん氏　千竈氏に謝辞

「交流会」ファシリテーター

【第２回（２０１４年１０月２６日)】
　講師：大野城まどかぴあ理事「川島久美子」氏
演題：「～大人のための　ちょっといい時間！～」

　第２回講演会「大人のためのちょっといい時間！～」では、福岡より、あまん氏のご友人である川島氏にお出でいただき、参加者の方々には「語り」の世界を堪能していただきました。日頃は、読み手や語り手側の皆さん方に聞き手として「いい時間」過ごしていただけたのではないかと思います。
　また、あまん氏の作品を作者の心情に触れながら友人ならではの解説をしていただき、作品の奥深さを学ばせていただきました。さらに「絵本化された昔話」や「翻訳された絵本」のご講話もいただき、『選書の大切さ』を再確認された方も多かったようです。
　交流会では、行政との連携の難しさを発言された人が多く、また前回に続き、絵本の読み聞かせには、滑舌やアクセント、発音の練習が必要というご意見も多く出されていました。
（大分大学高等教育開発センター紀要　第７号（２０１５年３月）別刷）

積極的に発表する学生

学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い)」メンバー

　前回、今回と２回の交流会では「何をねらいにした交流会なのかよくわからない」というご意見もいただきました。しかし、同じ活動をしている人々が、日頃活動を共にしているグループや地域の枠を超えて集い、意見を交換することだけでも活動の原動力になるのではないかと思います。また、そのためにこのような交流会やネットワークが必要かつ大切なのではないかと考えます。

　第３回目と第４回目は、読み聞かせの原点にかえり、読み聞かせや読書がもたらすものとして、幼い入院患者さんや赤ちゃんに目を向けてみました。

【第３回（２０１５年９月２７日）】
講師：大分ブックトーク研究会代表「首藤富久恵」氏
演題：「子どもと本と私と・・・『子どもと本』との時間で思ったこと！感じたこと！」

３回目は、大分ブックトーク研究会代表　首藤氏に、今回はブックトークではなく、ご自身がボランティアとして長く通われている病院でのお話をしていただきました。病と戦っている幼いお子さんたちと絵本やお話を楽しむという経験を重ね合わされたご講話は、私たちの心を打ち、聞き手と「絵本やお話を共有し共感する」ことを学ばせていただきました。
また、ストリーテリングの実演もしてくださり、心洗われるひとときでした。
「ひとりひとりの子どもに対して思いやりをもち、読み聞かせをすることの大切さ、真摯に対応していくことをいつも心にとめておきたい」「自分の生きがいと思っていたが、子どもたちが大好き、絵本が大好き、いろんなことを学んで今後に役立てていきたい」「自分のためにするのではないということを肝に銘じて続けていきたい」「老後のため…とちょっと思っているところがありました。反省です」などたくさんの感想をいただいています。

もちろん受付も謝辞も学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」

【第４回（２０１６年１１月１３日）】
講師：堀永産婦人科医院（大分市）　師長「渡邉しおり氏
演題：私と読書　「誕生の瞬間を共にして・・・」

４回目は、大分市の堀永産婦人科医院師長　渡邉氏に生きていく上での「読書」の大切さをお話していただきました。「協育」ネットは、２０１１年より、堀永産婦人科医院と毎月１回、出産後の母親を対象に「赤ちゃんと絵本との出合い」を共催で行っています。
この回では、医学部の学生さんにも医学部ボランティアサークル「うみの会」を通じて参加を呼びか

けてもらい、代表者２名には「ゆい（結い）」の学生と同様スタッフとして参加してもらいました。
前回、今回共に講師が地元ということで交流会は企画しませんでしたが、講師がスタッフと昼食を共にしてくださり、お弁当を食べながら、医学生が積極的に講師に質問をしていました。その様子を見て、その道の先輩と若い人たちが交流することは大変意義あることだと感じました。参加してくれた医学生から「医者を目指している自分のやるべきことが一つ見つかりました。それはほかでもない、本を読むことです。本を読むことで想像力をはたらかせる…すべてにおいて大切なことだと思いました」（前後略）という感想が後日届きました。希望者を募り交流会をすべきだったと悔やまれました。

講師紹介：読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」

謝辞：医学部ボランティアサークル「うみの会」

【第５回（２０１７年１２月２０日）】
講師：久留島武彦記念館（玖珠郡）　館長　「金成妍」氏
演題：「日本のアンデルセンとよばれた童話作家の故郷を訪ねて」

第５回目は、「久留島武彦記念館の見学＆館長講話」と「読み聞かせの実演見学」をしました。大分県には「日本のアンデルセン」とよばれた童話作家「久留島武彦」がいて記念館がこの年の４月にオープンしたばかりで、さらに玖珠町にはネットワーク「ゆい（結い）」のメンバーがいるということで企画にいたりました。
実は、５年目になるこの年、そろそろひと休みをしたいと思った年でした。しかし、企画会議で理事長から「継続は力なり」の一言。

「見学会＆館長講話」当日、記念館に入り、最初に私の目に入ったものが『心を育てる久留島先生の

教え』でした。そこには１２の教えが書かれていました。その中のひとつが「継続は力なり」でした。私は「何事も続けていくことが大事」という大切なことを学びました。
参加者の方々からは「なによりも久留島武彦という人を詳しく知ることができ、とても良かった」「金成妍館長の熱意と聡明さに感動した」などの感想をいただきました。
　また、地元の読み聞かせグループ「はぴねす」の実演を見学して「よく練習されていて、ハードルが高くなったが、愛情あふれる読み聞かせを持ち帰り、グループの研鑽に繋げていきたいと思った」など、これからの活動につながる感想もいただきました。
　読み聞かせネットワーク「ゆい（結い）」のメンバーでもあり「はぴねす」のメンバーでもある２名の方のつながりで、地域を超えて参加者同士が身近に交流ができたことも有意義なことでした。
美味しいランチをいただきながら館長さんを囲んでのひとときも良い研修になりました。

「金成妍」館長の講話

「地元の読み聞かせグループ「はぴねす」実演見学

【第６回（２０１８年９月８日）】
**　講師：東京子ども図書館　理事長「張替惠子」氏**
**　演題：「子どもと本の幸せな出会いのために私たちができること」**

　さて、第６回目の今回は、東京子ども図書館　理事長　張替氏にお出でいただき「子どもと本を取り巻く現状」、そして「子どもと本に関わってこられた経験や想い」を語っていただきました。この会については、すでに第１章で報告させていただいておりますが、講師が講演会でお話されたたくさんの書籍や東京子ども図書館の出版物を参加者が実際手に取ることができ、選書に対しての気づきや考えも深まり、幅も広がったようです。
　交流会では、張替氏をより身近に感じられた方が多く「また会いたいです」「子どもに関わる方の姿だ」という感想をいただいています。
　張替氏は、講演会はもちろんのこと、交流会でも大学生に向けてのお話をしてくださいました。次の世代へと途切れることなく「読書の素晴らしさ」を伝えていってほしいという張替氏の思いを学生たちもしっかり受け止めてくれたようです。

講演会一覧

年月日	講　師	演　題	内　容
２０１３年１０月３０日	童話作家 「あまんきみこ」氏	『童話作家の想い ～一冊の本ができるまで～』	①　講演会 ②　交流会（参加者のみ）
２０１４年１０月２６日	大野城まどかぴあ 理事「川島久美子」氏	『～大人のための ちょっといい時間！』	①　講演会 ②　交流会（講師を囲んで）
２０１５年　９月２７日	大分ブックトーク研究会 代表「首藤富久恵」氏	『子どもと本と私と・・・ 「子どもと本」との時間で 思ったこと！感じたこと！』	①　講演会
２０１６年１１月１３日	堀永産婦人科医院（大分市） 師長「渡邉しおり」氏	私と読書 『誕生の瞬間を共にして・・・』	①　講演会 ②　交流会（学生のみ）
２０１７年１２月２０日	久留島武彦記念館（玖珠郡） 館長　「金成妍」氏	久留島武彦記念館見学会 …日本のアンデルセンとよばれた童話作家の故郷を訪ねて…	①　読み聞かせグループ「はぴねす」実演見学 ②　記念館見学会　館長講話 ③　ランチ交流会（講師を囲んで）
２０１８年　９月　８日	東京子ども図書館 理事長「張替恵子」氏	『子どもと本の幸せな出会いのために 私たちができること』	①　講演会 ②　交流会（講師を囲んで）

・・あとがき・・

講演の内容にもよるのでしょうが、６年間という時を経て、アンケートの内容も少しずつ変化してきているように思います。

平成２２年（２０１０年）３月に大分大学高等開発センターから出された調査報告Ⅱ（ｐ１８）は、読み聞かせボランティアにとって悲しく残念なものでした。（家庭、学校、地域社会の「協育」ネットワーク構築の推進に関する調査報告～大分県における「学校支援地域本部事業」に係る意識調査から～）読み聞かせに行った先の子どもたちから「楽しく有意義な時間だった」「ぜひ又来てほしい」と思ってもらえるような活動にしていかなければ「本の楽しさ」も「読書の喜び」も伝えることができません。「本の楽しさ」や「読書の喜び」を経験させてあげることができれば、また来てほしいと思ってもらえるのではないかと思います。そのためにわれわれ読書支援ボランティアは、これからも日々研鑽を重ね、読書の楽しさ、素晴らしさを広めていきたいと思います。

第６回目の講演会を終え、１回目の開催のきっかけとなった「知人の紹介」ということが『協育』の第一歩であると改めて思っているところです。これからも「本と人」「人と人」とを結び、「本（読書）の大切さや素晴らしさ」また「楽しさや奥深さ」を深め広めていきたいと思います。

最後になりましたが、スタッフとして毎回、講演会に参加してくれた学生読み聞かせボランティア「ゆい（結い）」の学生さんたち、さらに結成前から、学習ボランティアとして読み聞かせ事業及び企画に携わってくれた留学生を含む多くの学生さんたちに感謝いたします。